

■月性 勤王僧。尊攘派志士らと活動し、海防僧と呼ばれた。

げっしょう

杉田玄白没・1817＝ 周防国大島郡遠崎村真宗西本願寺派妙円寺八世の長女尾上の子に生まれる。父は岩国の光福寺住職祇城。

水野忠成老中1818＝ 1歳：

・・・・・・1826＝ 9歳：

富嶽三十六景1831＝14歳：遊学に出、

豊後の広瀬淡窓塾(威宜園)に漢籍を、熊本で仏教を学び、

滑稽+人情本 1835＝18歳：

大塩平八郎乱1837＝20歳：

のち_諸国を遍歴して詩人や儒者と交わり、

_特に村田清風・吉田松陰・頼三樹三郎や安芸国同派の勤王僧黙森などと親交を結ぶ。

順天堂始・・1843＝26歳：東遊時に詠んだ「男兒立志出郷関・学若無成不復還・埋骨何期墳墓地・人間到处有青山」の詩は人口に膾炙されている。

天保改革終・1844＝27歳：

阿部正弘首座1845＝28歳：

・・・・・・1848＝31歳：自坊で清狂草堂を開塾した。

万次郎帰国・1852＝36歳：

ペリー来航・1853＝37歳：_ペリー来航に、

松下村塾・・1856＝40歳：*「仏法護国論」1巻を著わし、尊王攘夷の具体策として海防策を説いたが、それは仏教によってキリスト教を排撃し護国意識を喚起するという、護国・護法・防邪の一体を主張するものであった。本書は程なく刊行され、直ちに教版を重ねて長州藩の志士やひろく護法家の間に読まれた。同年、西本願寺広如に招かれ、「護法意見封事」を提示して勤王海防を説き、得業の学階を得て東山別院に住んだ。ついで梅田雲浜・梁川星巖らと交わったが、紀州海防を論じ、

蕃書調所・・1857＝41歳：*単身紀州藩に出かけ、大いに自説を陳べて帰郷、

五ヶ国条約・1858＝42歳：*西本願寺より蝦夷開教使を命ぜられたが、病のため果たさず、郷里で没した。